

# 支援チーム派遣即断

AMDA活動報告

## 救える命があれば

### どこへでも

□ 9 □

菅波 茂



## カトリーナ

のは、カナダ支部は等身大の米国を知っている数少ない国であるから。次の問題は「どこに救援チームを派遣すべきか」だった。ニューオーリンズ市長はすでに市民の脱出を宣言していた。

検討の結果、支援先はヒューストンで活動しているサルベージンナー（救世軍）に決定した。理由は簡単だった。

八月二十九日。ハリケーン「カトリーナ」が米南部を襲った。堤防の決壊による大惨事が発生。何十万人という避難者が隣接する州へ避難を始めた。「AMDAとしてどう対応すべきか」を真剣に考えた。

九月二日。AMDAカナダ支部から連絡が入った。「被災者救援のために募金活動を開始、医療彼らの判断を尊重した

このひらめきは大正解だった。ヒューストン市内のアストロドームなどがあるリライアントパークは、三万人近い避難者を収容していた。米連邦緊急事態管理局（FEMA）の要請により赤十字が医療を、救世軍が食と避難所を担当し、秩序が保たれていた。

驚いたのは、被災者がわずか七日間で三万人が七千人に減少したことだった。およそ二十の行政機関や民間団体が構成されるハウジングオーソリティー（住宅あつせん機関）が、被災者をより小規模な避難所や受け入れ

## 時空超えた援助の連鎖



避難者にインタビューするAMDA本部の調整員（右）＝8日、米ヒューストン（AMDA提供）

れが二回目である。最初は二〇〇一年九月二十一日だった。場所は米中枢同時多発テロのあったニューヨークである。AJWS（米国ユダヤ人世界サービス）に一万ドルを寄付した。

このユダヤ人国際協力NGOは、一九九五年の阪神大震災で被災者救援活動を行っていた。彼らが設置している杉原千畝を顕彰する財団から、AMDAに五万ドルを寄付してくれた。

彼らにとつて神戸は特別な街だった。リトニアの領事代理であった杉原氏に満州国通過ビザを発給してもらい、ナチスによる迫害から逃れた。そして上海から米国に向かう船で立ち寄った神戸で市民総出の炊き出しを

受けた。その神戸が燃えている。彼らは五百万ドルを神戸支援全体に送った。

私がこの理由を知ったのは三年後だった。新鮮な驚きだった。五十年の時空を超えた援助もあるのか。

なぜにあなたは私を助けるのか。緊急人道支援には先進国もなければ発展途上国もない。「救える命があればどこへでも」というスローガンを大切にしたい。そしてスローガンを実践できるAMDAに育てていただきたい関係者の方々にあらためて感謝したい。

AMDA（アジア医師連絡協議会）理事長

この連載は毎月第四日曜日に掲載します。